

「特別の教科 道徳」学習指導略案

第6学年2組 31名

指導者 若林 裕美

1. 主題名「真の友情」 B—10 友情、信頼

2. 資料名「ロレンゾの友達」（出典:Gakken「みんなの道徳⑥」）

3. ねらい

互いに信頼し、高め合いながら友情を深めると共に、本当の友達ならどうするかについての判断力を育てる。

4. 展開

	学習活動(○発問、☆中心発問)と児童の反応(・)	◇指導上の留意点 ◆評価の視点
導入 5分	1. アンケート「友達との関係を保つために気を遣っていることは何ですか」の結果を掲示し、今までの友達関係について振り返る。	◇自分にとって仲の良い友達を想起させることで、本時の学習をより自分事として捉えやすくさせる。
展開	2. 「ロレンゾの友達」を読んで感じたことを話し合い、道徳的価値の大切さを考える。 ○3人はロレンゾに対してどのように考えていたのでしょうか。 ・アンドレ…警察に捕まってほしくない。かわいそう。 ・サバイユ…ロレンゾの思いを尊重してあげたい。 ・ニコライ…罪は罪だからちゃんと償ってほしい。 ○あなたがロレンゾの4人目の友達なら、一番共感できるのは誰ですか。 ・アンドレ…ロレンゾを助けてあげたい。何か事情があるに違いない。 ・サバイユ…ロレンゾの思いを大切にしたいが、自首することも勧めたい。 ・ニコライ…悪いことは悪いと言ってあげるのも友達だ。 ○かしの木の下で話し合ったことを3人とも口にしなかったのはなぜでしょう。 ・疑ってしまったから。・信じてあげられなかったから。 ・伝えたらロレンゾが悲しむと思ったから。	◇3人ともロレンゾのことを思っていることに気付かせる。 ◇オクリンクプラスを活用し、自分の立場を視覚的にも明確にし、主体的に考えられるようにする。 ◇3人の言動ではなく、ロレンゾへの思いに着目させながら考えさせることで、自分自身の友情観を言語化させていく。 ◆友達の過ちに対してどうすべきか、自分に置き換えたり、自分の経験と比べたりして考えようとしている。 (観察・オクリンクプラス・発言) ◇3人が警察の言うことを信じてしまったことに着目させ、「本当の友達」としての在り方とは何か、再度考えさせる。
35分	3. 自分の生活を振り返る。 ☆友達とより一層絆を深めるためには、どのような関係を築いていけばよいのでしょうか。 ・相手のことを心から思いやれる関係 ・何があっても信頼し合える関係	◇導入のアンケート結果を再度掲示し、ねらいとする道徳的価値への理解を深める。 ◆「本当の友達」としての在り方について、さまざまな観点から考えを深めている。 (観察・ワークシート・発言)
終 末 5分	4. 教師の説話を聞く。	◇「友よ～この先もずっと…」の後半部分を流し、「本当の友達」としての在り方とは何かを考えさせながら余韻をもって終わる。